

令和 8 年 度
施 政 方 針



粕 屋 町

1. はじめに

本日、ここに令和8年度の予算案をはじめ、関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営に関する所信の一端を申し上げますとともに、予算案及び重点施策の概要をご説明いたします。

昨年を振り返りますと、4月に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに158の国と地域が参加した、大阪・関西万博が開幕しました。6月から8月の平均気温は統計開始以降で過去最高となり、観測史上最も暑い夏となりました。他にも、令和のコメ騒動による政府備蓄米の放出、東北・北海道地方を中心にクマ被害の深刻化、各地で発生した大規模な林野火災など、多様な社会課題が顕在化した一年でもありました。10月には憲政史上初めての女性首相が誕生しました。様々な分野における刷新への期待と必要性が急速に高まってきております。

そのような中で、本町では、子ども医療費の助成対象を高校生世代まで拡大し、食料品等の価格高騰に対応した給食費補助など、子育て世代の経済的負担軽減を図りました。6月、9月及び今年1月には物価高騰対策を補正予算に計上し、間断なく生活者や事業者の方々の支援に取り組んでまいりました。9月にはAIオンデマンドバス「のるーと粕屋」の運行を開始し、町民の皆様の暮らしの足として大変ご好評いただいております。

また、行政組織におきましても、「新生・かすやプラン」の一環として、平成22年以来、15年振りとなる機構改革や、オフィスカジュアル※1の導入などを実施しました。コロナ禍を経て人々の行動様式が変化した現在、これまでの慣例や前例を大胆に見直すチャンスと捉え、職員の働き方改革にも注力しております。

粕屋町は、昭和32年3月に町制を施行し、今年で70年目を迎えます。町制発足時1万1,607人であった人口は、今年1月末現在で4万8,425人、単独で市制の施行が見込めるまでに発展してまいりました。

「人がつながる 夢が広がる 粕屋町」

町制施行70周年にあたり、粕屋中央小学校4年生の児童が考案してくれたキャッチフレーズです。「人と人のきずなが町の力であり、そのつながりが夢を広げていく」という思いが込められています。

先人が築き上げた叡智と努力を大切に受け継ぎ、その想いを「かすや」の未来を担うこどもたちへ紡ぐため、町一丸となって「町制施行70周年記念事業」にも取り組んでまいります。

70周年という節目を町民全体で祝い、盛り上げてまいりましょう。

※1 オフィスカジュアル: スーツほど堅苦しくなく、カジュアルな要素を取り入れた職場で通用し、来客に失礼のない服装。

昨年12月に発表された「街の幸福度 駅ランキング2025^{※2}」において、酒殿駅が福岡県内2位に選ばれました。近年の区画整理による自然と調和した新しい街並みに加え、町のランドマークである駕与丁公園、さらには医療機関や商業施設、大型ショッピングモールが徒歩圏内に揃う生活利便性が高く評価された結果と聞いております。豊かな自然と利便性の両方を享受し、家族で安心して暮らせる環境が「幸福度」として高く評価されたことを、大変嬉しく思います。

令和8年度から第6次粕屋町総合計画がスタートします。まちの将来像である「選ばれるまち ずっと住みたくなる場所 かすや」の実現に向け、

- 便利で安心なずっと住みたくなる場所をつくる
- 人と企業から選ばれるまちをつくる
- 新しい発想や仕組みで未来のまちをつくる

これら3つの重点プロジェクトを推進してまいります。

今回の計画から取り入れた各分野における Well-Being 指標を実施指針に据え、町全体の幸福度を底上げすることで、新たなまちづくりへの挑戦を力強く進めてまいります。

^{※2} 街の幸福度 駅ランキング2025:大東建託株式会社が居住満足度調査を行い集計したもの。

2. 令和8年度 予算案

それでは、令和8年度の予算案についてご説明いたします。

令和8年度の予算規模については、

一般会計	224億 4,100万円
特別会計	71億 5,183万円
企業会計	36億 4,448万7千円
予算総額	332億 3,731万7千円

となっております。

一般会計が、前年度比マイナス 1.3%、2億9,100万円減少しましたが、これは、切れ目なく事業の推進を図るという考えのもと、令和7年度補正予算と令和8年度当初予算を一体的に措置したことによるものであり、令和7年度補正予算に盛り込んだ物価高騰対策事業などにかかる予算を合わせて捉えると、令和8年度に実施する事業規模は前年度を上回り、実質的には過去最大規模の予算となっております。

特別会計と企業会計を合わせた総額では、前年度比マイナス 1.0%、3億4,390万7千円の減少となります。

歳入については、根幹となる町税収入は、個人・法人町民税、固定資産税が堅調に推移し、前年度を上回る見込みです。地方交付税については、国の地方財政対策を踏まえ増加を想定しております。県支出金については、上大隈公民会館長寿命化改修工事や小中学校の学習用タブレット端末の更新、小学校給食費無償化の実施に伴い増加を見込んでおります。

一方で、国庫支出金については、定額減税補足給付金給付事業の終了などにより減少する見込みです。町債については、引き続き個別施設計画に基づく公共施設の改修をはじめとした事業を実施するものの、完了した事業が多く、大幅な減少としております。

歳出については、民生費が、仲原保育所移転改修工事や上大隈公民会館及び福祉センターの長寿命化改修工事の実施などにより大幅に増加、衛生費が、次期ごみ処理施設の建設に伴う須恵町外二ヶ町清掃施設組合負担金の増額により増加となっております。公債費についても近年の積極的な公共施設整備事業の実施に伴い増加傾向にあります。

一方、総務費、土木費及び消防費については、完了した事業が多いことから減少しております。教育費については、粕屋西小学校大規模改修工事費を令和7年度補正予算に計上したため、当初予算ベースでは減少する形となりました。

なお、財源不足を補うため、財政調整基金から7億9,100万円の繰入れを計上するとともに、ふるさとづくり寄附金の寄附者の意向を反映し、ふるさとづくり基金から3億1,290万円を繰り入れております。

粕屋町は、これまで力強い発展を遂げてまいりました。今後さらに成長し、「選ばれるまち ずっと住みたくなる場所 かすや」を実現するためには、町の魅力を積極的に発信し、安全・安心で快適な未来に向けたまちづくりを進めることが求められます。

新年度予算では、扶助費や公債費など義務的経費の増加に加え、物価や労務費の高騰による物件費の増加など、財政運営の厳しさが見込まれる状況にありますが、前年度並みに財政調整基金から繰り入れし、子育て支援や町の魅力発信、施設整備など、将来の成長と地域の活性化につながる予算を盛り込んだ意欲的かつ戦略的な予算措置を講じており、「新生・かすやプラン」を確実に前進させてまいります。

今後も、中長期的な視点に立った財政運営を行い、持続可能な行財政基盤の構築に取り組んでまいります。

3. 町政運営の方針

それでは、公約に沿って、重点施策の概要についてご説明いたします。

子育てしやすいまちづくり

国において公立小学校給食費の抜本的な負担軽減(いわゆる給食無償化)が進められる中、本町では更なる子育て支援と、学校給食を通じたこどもたちの健やかな成長を願い、令和8年度は町立小学校の給食費を無償化するとともに、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金等を活用し、町独自の施策として中学校についても給食費を無償化いたします。

令和8年度に、かすやこども館は開館10周年を迎えます。これまで多くのこどもや保護者に利用され、地域やボランティアの協力のもと、こどもや子育て世代を支える拠点として親しまれてきました。町制施行70周年とあわせて記念行事を実施し、かすやこども館に関わってこられた全ての皆様へ感謝の気持ちをお伝えするとともに、今後もこどもたちの健やかな成長を支える場として、更なる魅力向上に取り組んでまいります。

こどもが安全で安心して過ごせる場所を創出するため、西幼稚園において、施設の一部や園児の降園後の時間を活用して、こどもの居場所づくりに取り組みます。あわせて、こどもの居場所づくりコーディネーターを配置し、関係機関や地域と連携した支援体制の構築を図ります。

住みやすいまちづくり

町の中心拠点である長者原駅・原町駅周辺において、まちづくり研究会やワークショップなどを通じ、駅周辺の良い環境や価値を維持・向上させ、にぎわいと魅力の創出に向けたまちづくりビジョンの策定に取り組んでまいります。

九州大学農場跡地について、幅広い世代の利便性向上や新たな雇用の創出につながる市街地を目指し、町の次代を担う新たな「まちの顔(拠点)」の形成に向け、まちづくり協議会を開催し、農場跡地の基本構想を策定いたします。

誇れるまちづくり

昨年誕生した町のPRキャラクター「かすたまちゃん」を通して、町への親しみや認知の拡大、郷土愛の醸成につなげるため、グッズ制作や交流イベントを開催いたします。また、走る広告塔として、7月から町制施行70周年を記念した原動機付自転車(原付バイク)のご当地ナンバーを交付します。

物価高騰の影響を受けている町民や事業者の負担軽減と地域経済の活性化を図るため、商工会と連携し、かすやよかつ Pay(プレミアム付キャッシュレス商品券)事業を実施いたします。令和8年度は、町制施行70周年を記念し、5千万円分を上乗せして、発行総額2億4千万円(プレミアム率20%)で実施いたします。

安心して生活できるまちづくり

福岡県が令和7年10月に公表した「地震に関する防災アセスメント^{※3}調査」における被害想定では、これまでより多くの被害が想定されています。これを受け、県の防災計画に基づき、町の地域防災計画を見直します。また、昨年度に引き続き、町の総合防災訓練を行い、ドローンを活用した訓練や給食支援等、自衛隊、消防、警察の協力のもと、災害への対応力向上及び町民の防災意識の高揚を図ります。

準用河川である仲原川において、河床に堆積している土砂等を撤去し、流下能力の確保を図り、近年激甚化する大雨や集中豪雨による浸水被害の軽減に向けて、引き続き浚渫工事を実施いたします。

老朽化が進む福祉センターを、福祉のまちづくりの拠点として、安全・安心に利用できるよう、長寿命化改修工事を行います。福祉避難所としての機能を備え、世代を超えた多様な人々が気軽に集える施設を目指します。また、上大隈公民会館についても、公共施設等個別施設計画に基づき、長寿命化改修工事に着手いたします。

高齢、障がい、こども、生活困窮といった分野別の縦割り支援では対応しきれない、複雑化・複合化した地域生活課題に対応するため、分野を超えた重層的な支援体制の整備を進めます。

^{※3} 防災アセスメント:地域に潜在する災害の危険性と、建物やライフラインなどの脆弱性。

次に、第6次粕屋町総合計画に掲げる10の政策分野に沿って、所管部ごとに主要な事務事業の内容を申し上げます。令和8年度は合計118の事務事業の実施を予定しています。

[住民福祉部] 子育て分野、健康・保険分野、くらし・福祉分野

令和8年度は予算額172億2,456万4千円を計上し、38事務事業の実施を予定しています。

- 助産師を講師とするマタニティスクール^{※4}を開始し、妊娠・出産・育児に関する知識の普及や、参加者同士の交流の促進を図ります。また、令和8年度から新たに5歳児健診を開始し、妊娠期から就学前までの切れ目のない健康診査を実施いたします。

- 老朽化した仲原保育所園児の安全・安心な保育環境を確保するため、閉園後の仲原幼稚園を改修し、保育所として活用できるよう進めてまいります。保育所に必要な0～2歳児用の設備を新たに設置し、仲原保育所の移転に向けて、こどもたちがいきいきと過ごせる保育施設の改修工事を実施いたします。

※4 マタニティスクール：妊娠中の方やそのご家族が、妊娠・出産・育児について学べる教室。

- 町制施行70周年を記念し、全ての世代が参加できる「粕屋町健活デー」を開催いたします。ワンヘルス^{※5}の考え方も踏まえ、駕与丁公園を活用した落ち葉拾いウォーキングや親子体操を通じて、心身の健康づくりと環境への意識向上を図るとともに、認知症への理解を深めるため、VR体験や講座を実施いたします。
- 地域共生社会の実現を目指して、効率的かつ総合的に福祉施策を推進するために、福祉に関連する高齢者、障がい者などの分野別の計画と地域福祉計画、地域福祉活動計画を一体的に「粕屋町福祉総合計画」として策定いたします。

[教育部] 教育分野、文化・スポーツ分野

令和8年度は予算額30億1,973万3千円を計上し、21事務事業の実施を予定しています。

- こどもたちが安全・安心に学校生活を送れるよう、粕屋西小学校及び粕屋中央小学校体育館において大規模改修工事を実施するとともに、多目的トイレの整備や太陽光発電設備の設置など、学校施設の整備を進めます。

^{※5} ワンヘルス:人の健康・動物の健康・環境の健全性を1つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方。

- 仲原小学童保育所において、待機児童の解消を図るため、学校の空き教室を活用した学童保育室を増設し、定員増を図るとともに、移転する仲原保育所跡地を利用し、更なる施設の充実に向けて準備もしています。
- こどもたちの豊かな学びや成長を支える様々な活動の機会を創出するため、昨年から配置している地域学校協働活動推進員^{※6}(コーディネーター)を増員し、学校・地域におけるこどもたちへの更なる支援の充実を図ります。
- アビスパ福岡及びライジングゼファーフクオカの応援デーに加え、新たに福岡ギラソールの応援デーを計画しております。こどもたちがトップレベルの競技に触れる体験を通じて、夢や挑戦する心、チームワークの大切さを育み、こどもたちの健全育成を目指します。
- 生涯学習センターにおいて、高校生と中学生の吹奏楽部が連携した町制施行70周年記念コンサートを実施し、こどもたちが文化芸術に親しみ、興味・関心を高める機会を創出いたします。

※6 地域学校協働活動推進員:学校に対するゲストティーチャー紹介や学校サポーターの発掘、地域における子供会、地域寺子屋活動支援などを行うコーディネーター。

[都市政策部] 都市づくり分野、環境分野、産業分野

令和8年度は予算額40億8,733万9千円を計上し、27事務事業の実施を予定しています。

- 令和7年度に導入したAIオンデマンドバス「のるーと粕屋」を、日常的に利用される交通手段として定着させるとともに、将来にわたって持続可能な地域公共交通手段として、ミーティングポイント(乗降場所)を増設するなど、利便性向上に引き続き取り組んでまいります。
- バラまつりでは、町制施行70周年を記念し、町内外から多くの来園者を迎えらるよう、まつりの充実を図るとともに、令和10年度のばらサミット(ばら制定都市会議)の開催に向けて誘致に取り組めます。また、駕与丁公園の活用と、にぎわいづくりを目指し、イベントなどで利用できる屋外ステージの設計を行い、更なる公園の魅力向上を進めます。
- 農地の減少や担い手不足が進む中、農業経営の安定化と次世代の担い手確保につなげるため、スマート農業^{※7}推進事業補助金を新たに創設し、農業用ドローンの導入を支援いたします。また、高収益作物に対する生産者支援として、令和8年度から指定野菜となるブロッコリーの転作助成の増額や生分解性マルチ^{※8}の導入を支援いたします。

※7 スマート農業:ロボット、AI、IoT など先端技術を活用する農業。

※8 生分解性マルチ:微生物の力で最終的に水と二酸化炭素に分解される環境に優しい農業用マルチフィルム。

[総務部 他] 安全・安心分野、まちの運営分野

令和8年度は予算額22億9,581万5千円を計上し、32事務事業の実施を予定しています。

- 町民の皆様と共に節目の年を祝い、町の歩みと未来への展望を共有する場として、10月31日に70周年記念式典を開催いたします。町民の誇りと愛着を高め、未来に向けた新たな一歩につなげます。また、先人への感謝と未来への希望を次代へつなぐ取組として、住民発案によるまちづくりイベントなどを支援し、町の持続的な発展とシビックプライドの醸成を図ります。
- 電子投票システムを福岡県で初めて導入し、有権者にとってより簡便で負担が少ない投票環境の整備と、記入ミスによる無効票の発生を抑え、有権者の意思を明確に反映できる選挙の実現を目指します。
- 地方創生の取組を一層推進するため、企業版ふるさと納税の拡大に向け、町外企業への積極的なアプローチや施設におけるネーミングライツ^{※9}を活用するなど、地域課題の解決に活用する財源の確保に取り組んでまいります。

以上、令和8年度の町政運営の方針を申し述べました。

^{※9} ネーミングライツ:公共施設やイベントの名前を付与する命名権のこと。

4. おわりに

早いもので私の2期目4年間の任期も残り6か月程となりました。コロナ禍に始まり、物価高騰が続く非常に困難な状況下において、町民の皆様をはじめとして、各方面から賜りました厚いご支援とご協力に深く感謝いたします。

「かけがえのないふるさと」を次の世代につないでいくために、近年のVUCA^{※10}時代の中で、「新生・かすやプラン」をはじめとした町独自の政策を速やかに実施し、町民一人ひとりが Well-Being を真に実感できる、未来志向のまちづくりを進めてまいります。

町民の皆様、そして、ここにお集まりの議員各位におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和8年度の施政方針とさせていただきます。

令和8年2月

粕屋町長 箱田 彰

※10 VUCA:先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態。



人がつながる
夢が広がる
粕屋町

粕屋町町制施行70周年記念ロゴマーク・キャッチフレーズ